



門 へ 13
 號 3749
 卷 12

倭文庫

二十三編

上の巻

万亭應賀作
 一陽齋豊國画

錦重堂板



土綱色



釋迦八相倭文庫二拾三編叙

和毛野保苗婦茂登延美知者於德懸禮土意奈志久藻井之津喜
 遠名賀無流一と最手短の悟也され天台宗の止觀と覺禪宗の本末
 の面目と知念佛宗の我我入機法と悟真言宗の阿字本不生とさとり日
 蓮宗の妙法の二字と以て一流法華の悟とまれど是皆信心偈仰と希
 の往生の浄土と除て何所あらん杖戲神史も是亦等しく信心偈仰とせね
 と何の物のと趣向の替れと通る所の勸善の道を正しく一向の希の唯評判の
 當と除て何のあらん斯まの神の冊子の神を減る小尊崇仏の草紙の佛を
 敬ひ餅屋の双紙の酒屋と難り酒屋あまの餅屋と難る兒の柏の裏表
 と其日々の風ふ任事戲作者も亦君子に辱れて豫名と末世の殘ん而巳

嘉永五年壬子正月吉日發行

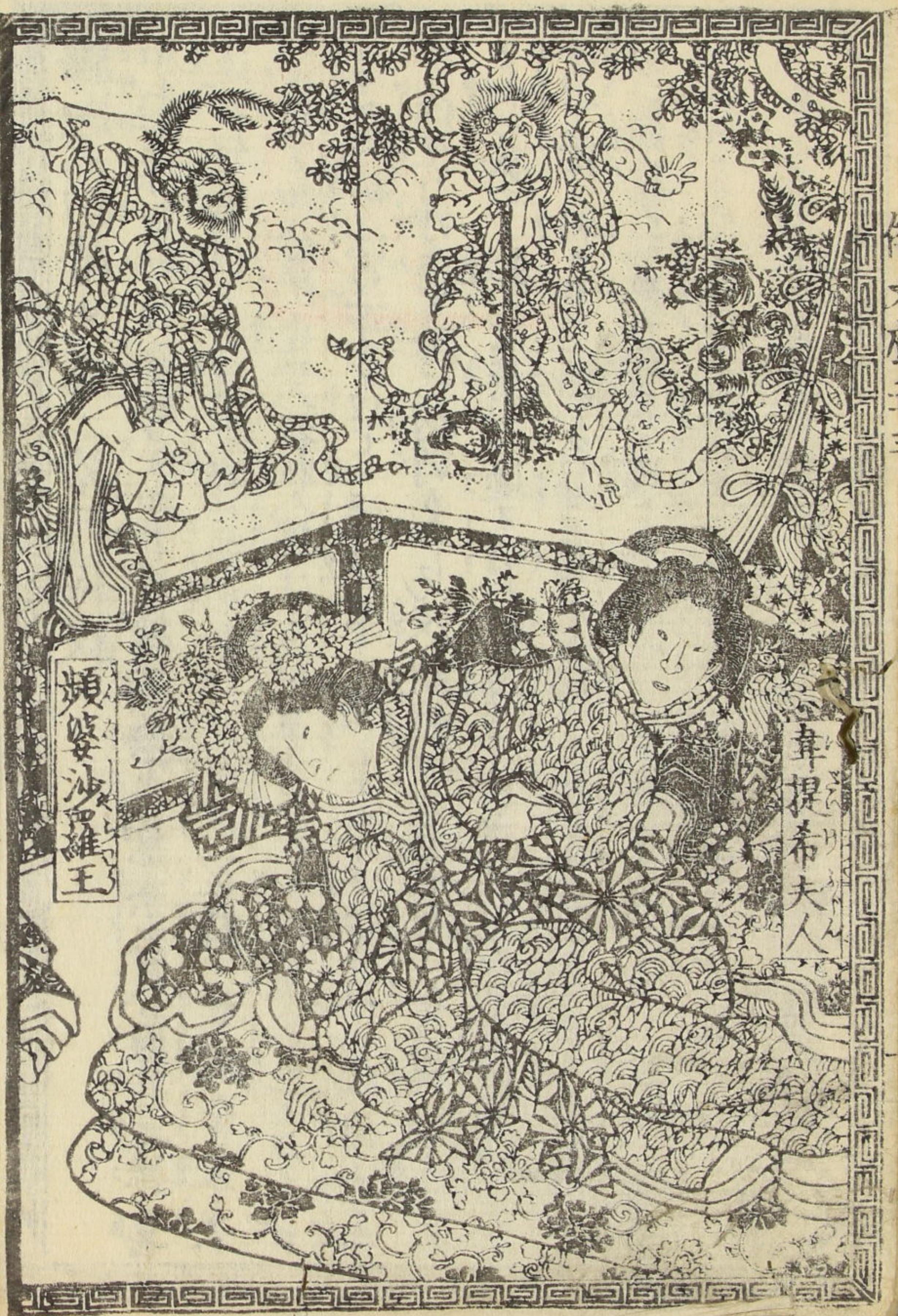
万亭應賀誌





中天竺摩伽陀國の
 頻婆沙羅王
 正舍利仙人を
 殺す
 韋提希夫人
 逆子と
 孕む

大春
 臣安



頻婆沙羅王

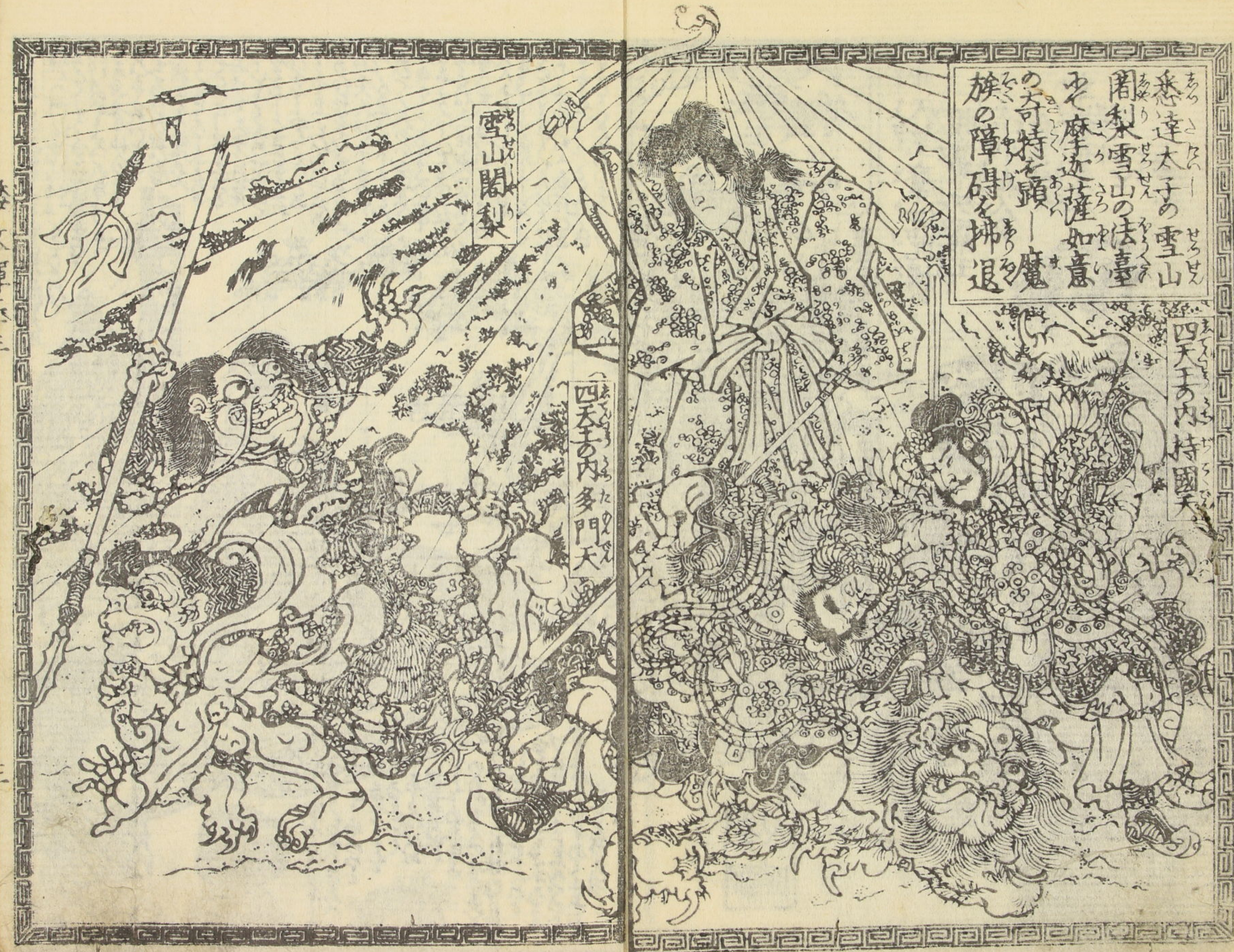
韋提希夫人

悉達太子の雪山
閣梨雪山の法臺
之摩迹薩如意
の奇特を頭一魔
族の障碍を拂退

四天王の内持國天

四天王の内多門天

雪山閣梨



阿弥陀佛... 卷之三

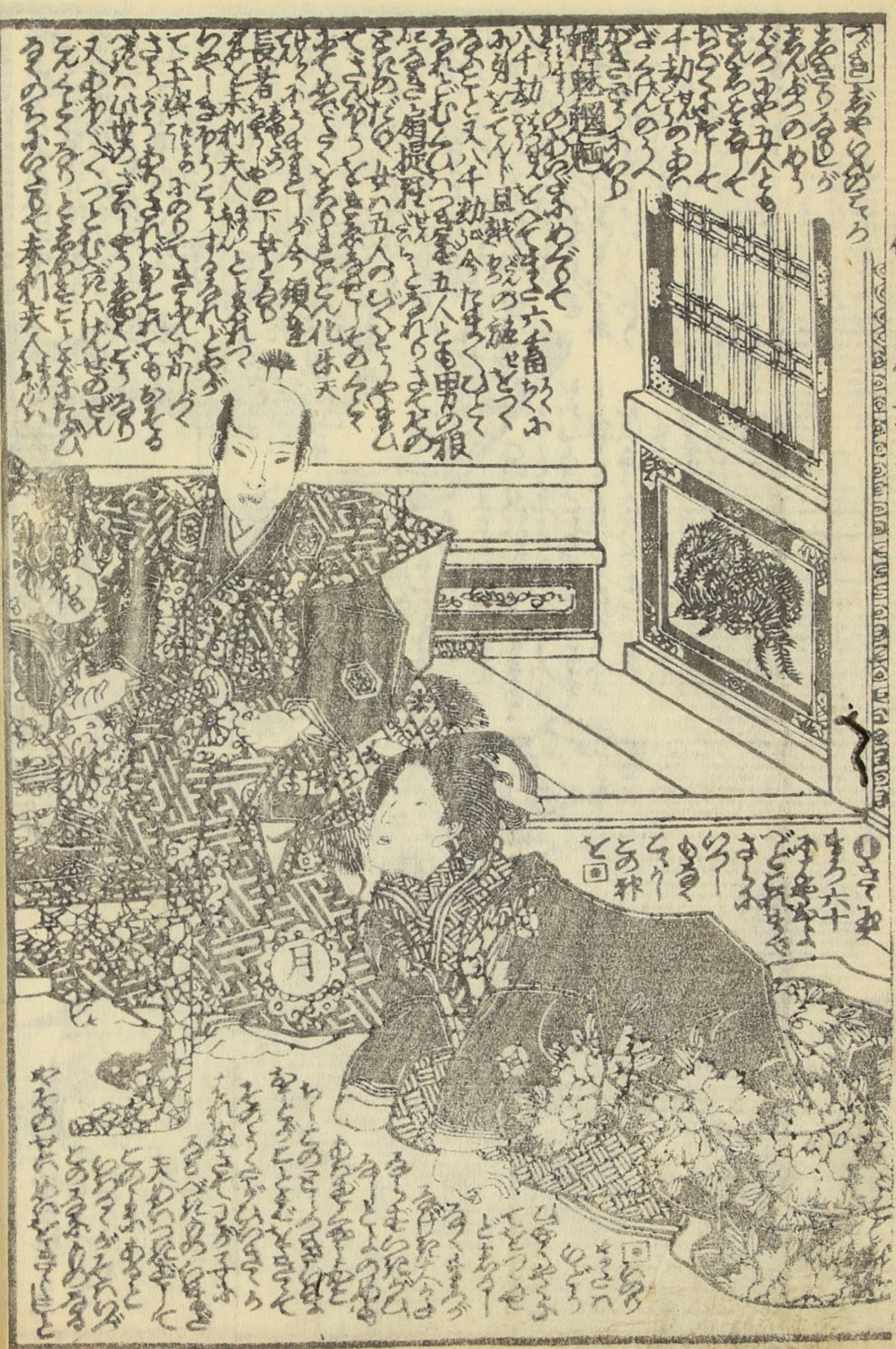


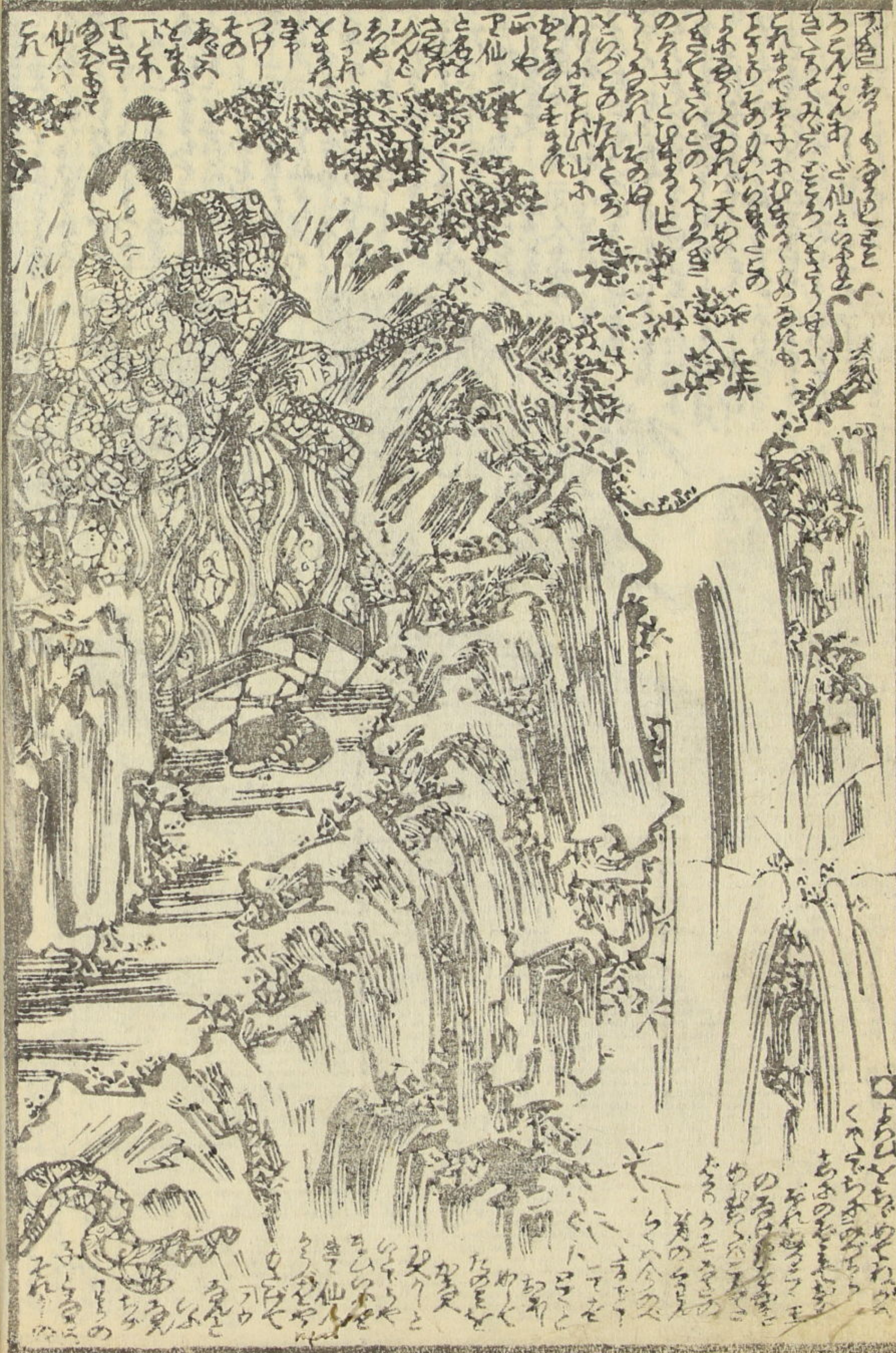
阿弥陀佛... 卷之三

阿弥陀佛... 卷之三



阿弥陀佛... 卷之三





これかあはしのあてに...
さうたうたうたの...
仙人のあてに...



あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...

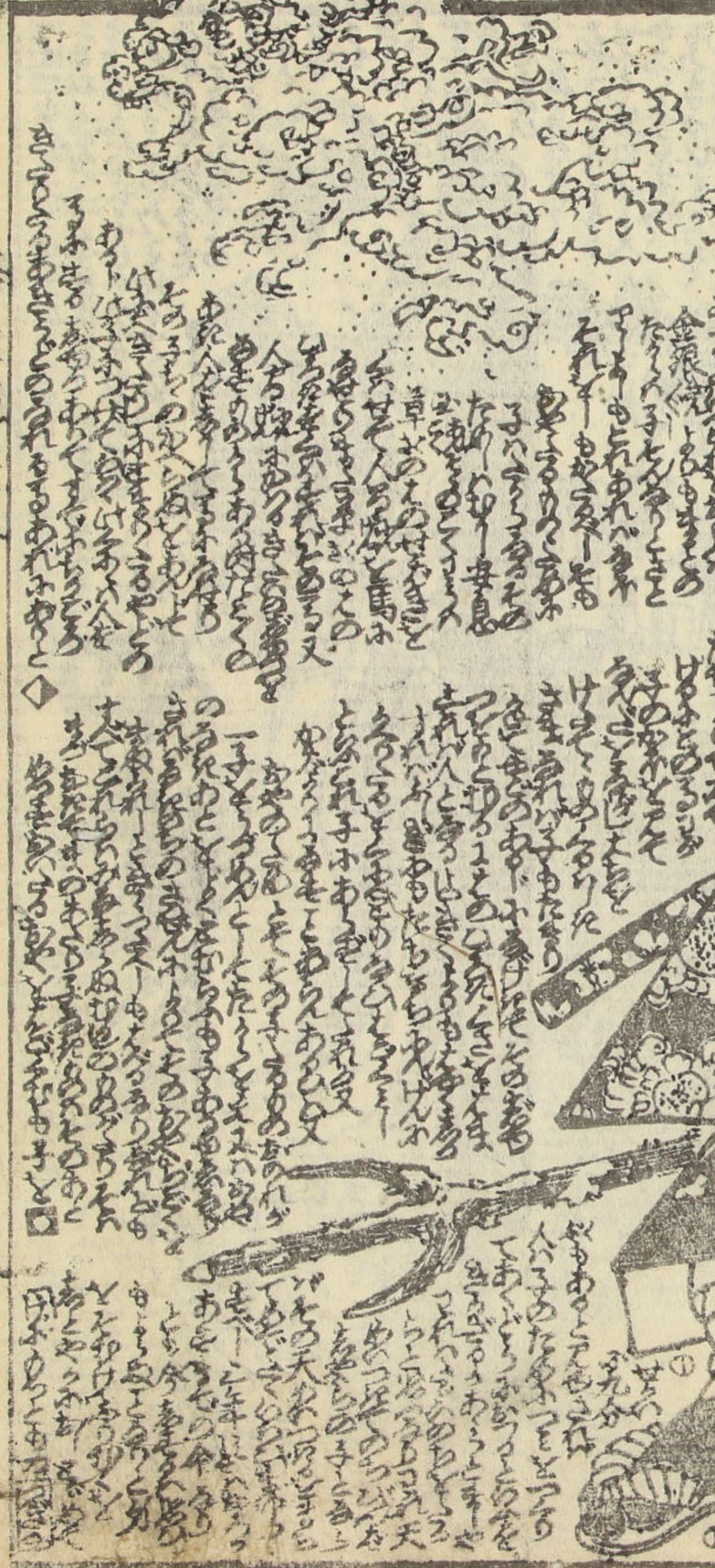
あまの...
あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

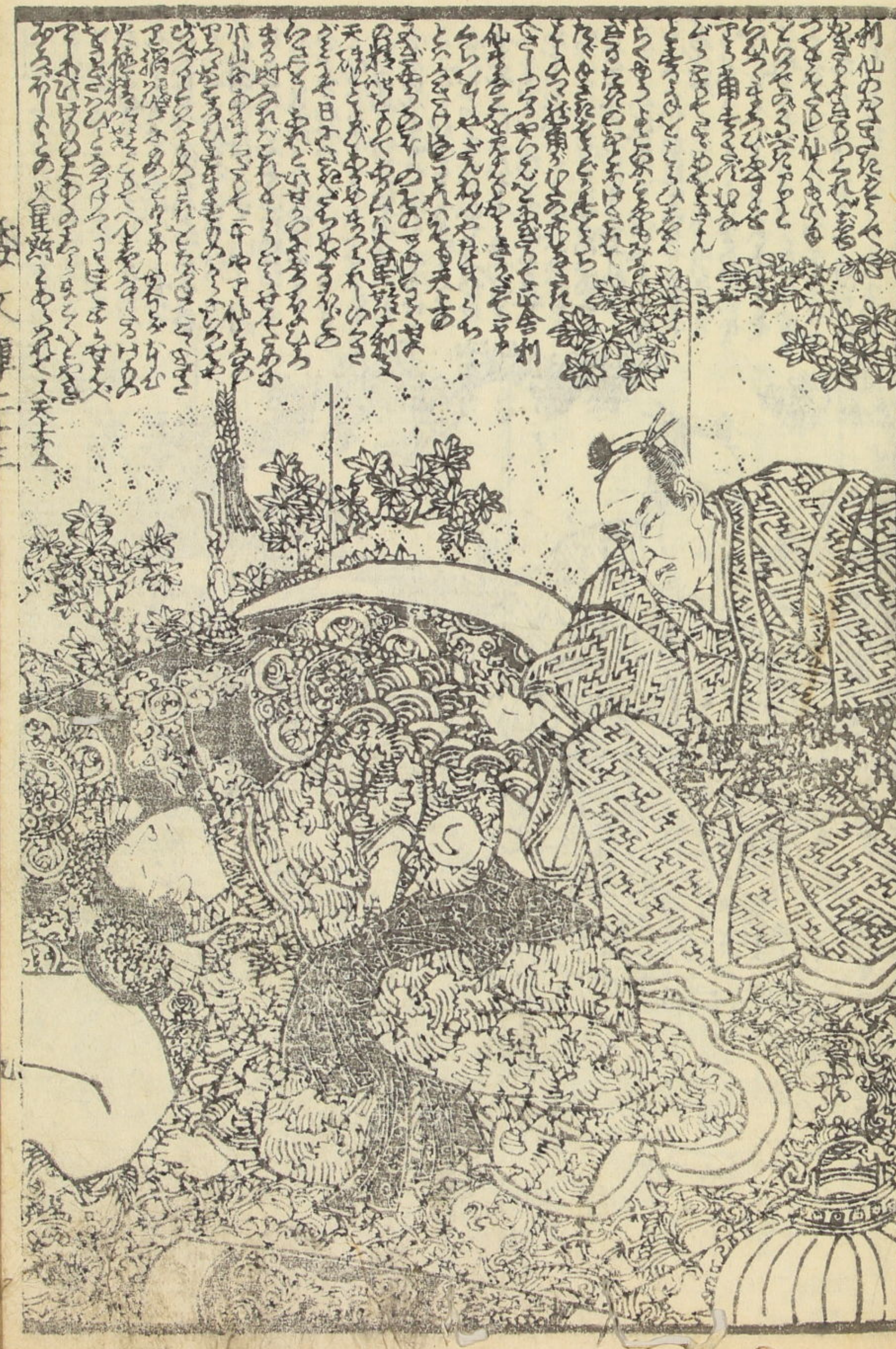
あまの...
あまの...
あまの...



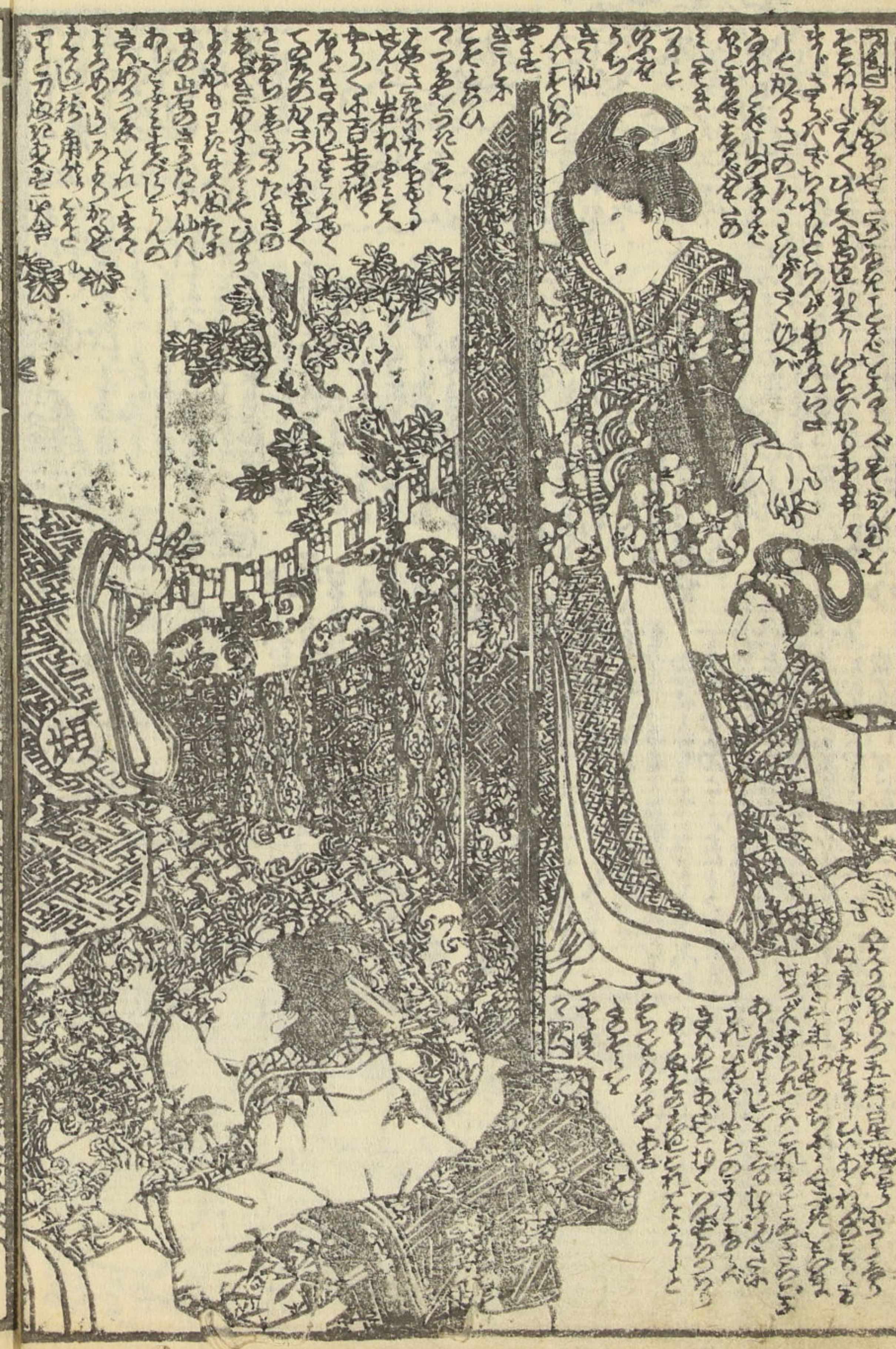
あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style (sōsho).



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or commentary from the left page. The text is written in a cursive style (sōsho).

Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or commentary from the left page. The text is written in a cursive style (sōsho).

徳川御成敗式目
第一卷
第一條
凡我臣民
如有違犯
此等法律
者一經查出
定行懲罰
决不寬貸
其有知情
舉報者
定予重賞
以資鼓勵
此係國家
法律
人人共知
不可不遵
其有違犯
者一經查出
定行懲罰
决不寬貸
其有知情
舉報者
定予重賞
以資鼓勵
此係國家
法律
人人共知
不可不遵



此係國家
法律
人人共知
不可不遵

徳川御成敗式目
第一卷
第二條
凡我臣民
如有違犯
此等法律
者一經查出
定行懲罰
决不寬貸
其有知情
舉報者
定予重賞
以資鼓勵
此係國家
法律
人人共知
不可不遵
其有違犯
者一經查出
定行懲罰
决不寬貸
其有知情
舉報者
定予重賞
以資鼓勵
此係國家
法律
人人共知
不可不遵



此係國家
法律
人人共知
不可不遵

安政三年丙辰春新板目錄

應賀作豊國画

この書は、豊國の應賀作の画集である。其の巻目は、

赤松譚、重井菱、譚柄瑠璃、茶番案文、神代どうほら、重本類錦繪、上州屋重藏、

萬亭應賀画、陽齋豊國画、如洲外史画、永春水画、西澤一鳳画、万亭應賀画、陽齋豊國画、

三十四編、三十五編、三十六編、三十七編、九編、十編、六編、七編、五編、四編、三編、二編、

萬亭應賀画、陽齋豊國画、如洲外史画、永春水画、西澤一鳳画、万亭應賀画、陽齋豊國画、

三十四編、三十五編、三十六編、三十七編、九編、十編、六編、七編、五編、四編、三編、二編、

倭文庫 三十四編 三十五編 万亭應賀画

赤松譚 九編 十編 同如洲外史画

重井菱 六編 七編 同為永春水画

譚柄瑠璃 四編 五編 同西澤一鳳画

茶番案文 全冊 一陽齋豊國画

神代どうほら 三編 四編 同万亭應賀画

重本類錦繪 一上州屋重藏

此の書は、豊國の應賀作の画集である。其の巻目は、

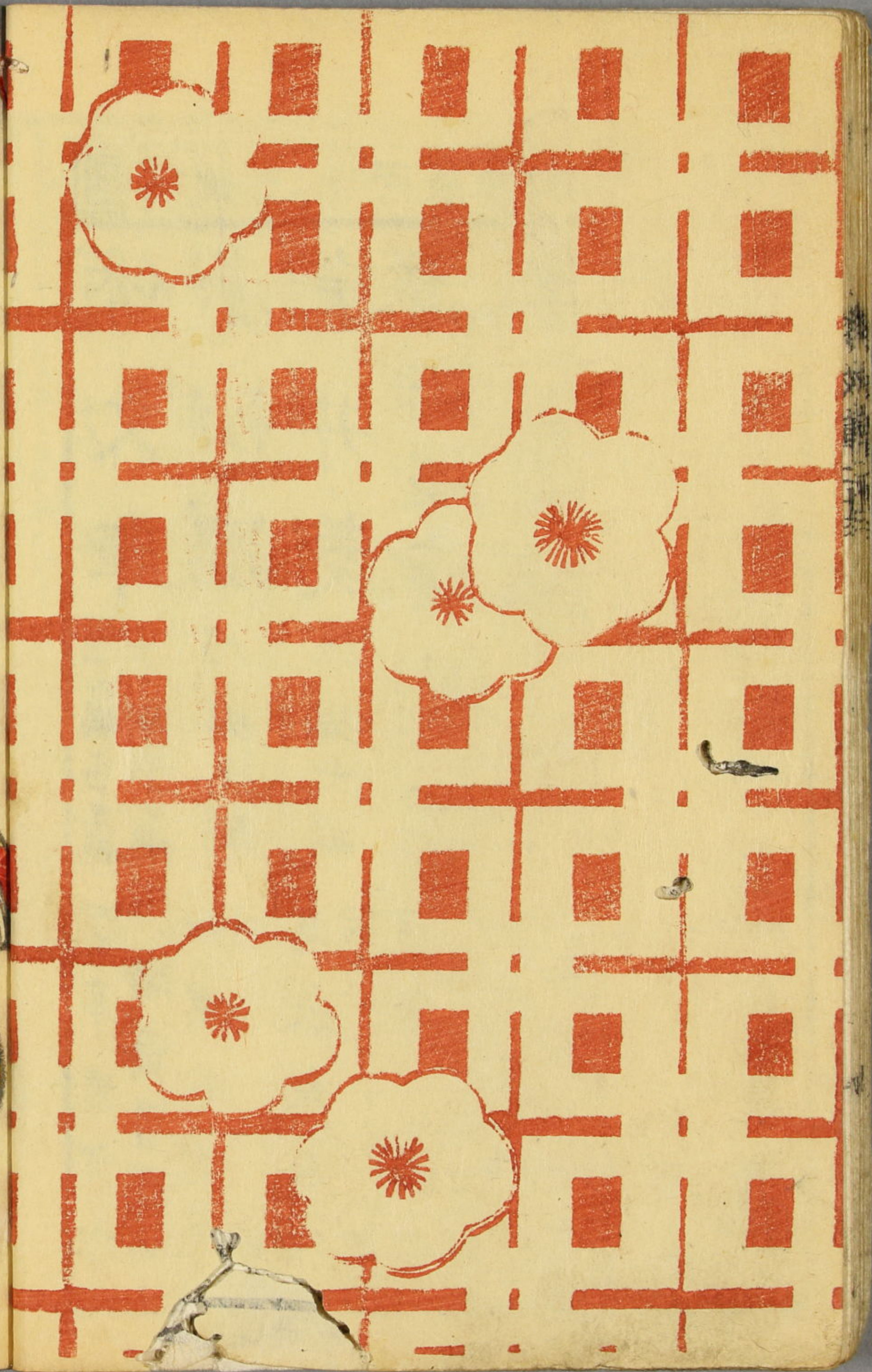
此の書は、豊國の應賀作の画集である。其の巻目は、

陽齋豊國画



万亭應賀作

下





この山は仙人の住むところである。仙人は常々此山に登りて修行する。昔々此山に仙人ありて修行す。一日此山に登りて修行す。一日此山に登りて修行す。



仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。

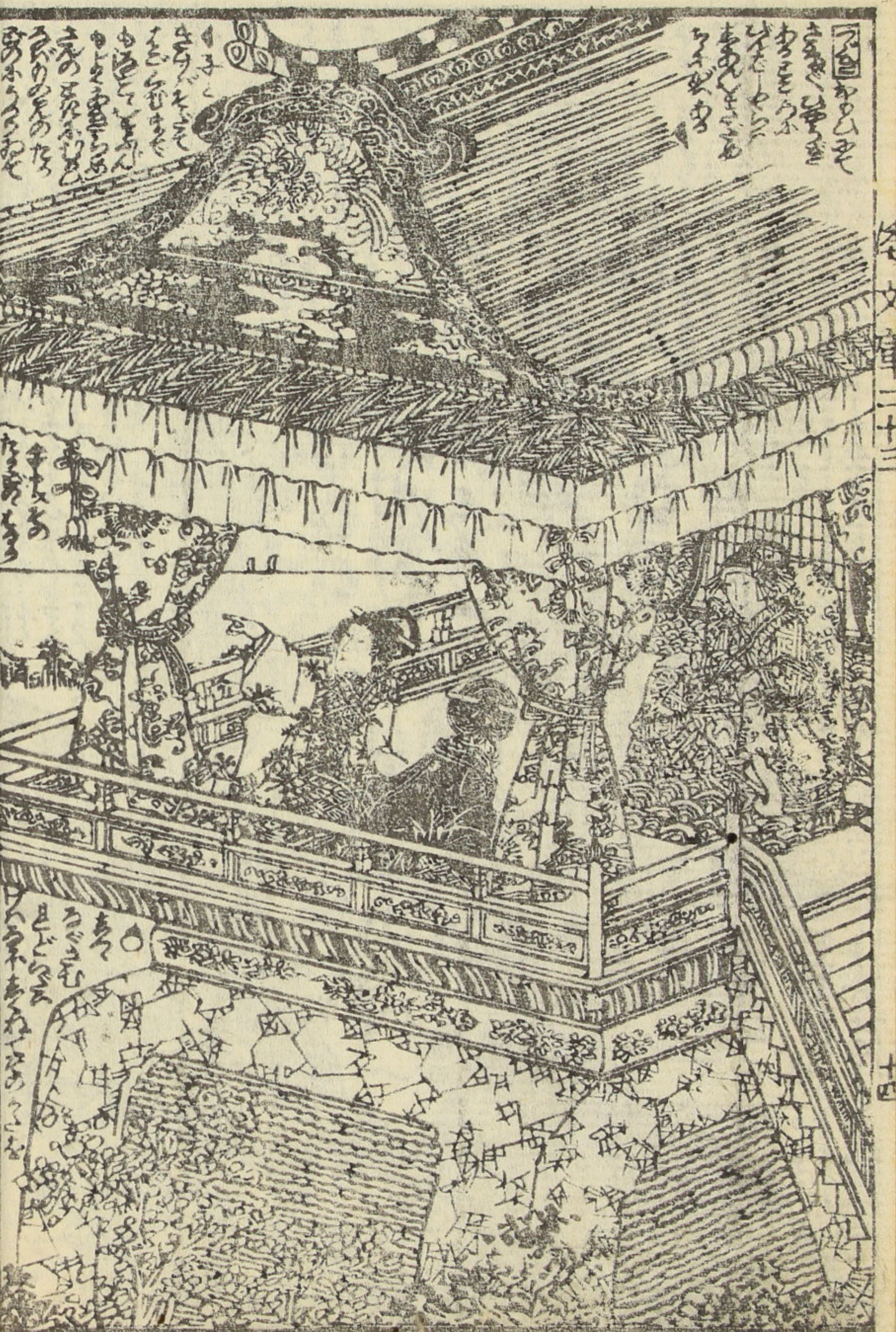
仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。



仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。

仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。仙人の修行は苦しいものである。仙人は常々此山に登りて修行する。

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, covering the left page of the manuscript. The text is arranged in vertical columns, with some lines starting with a diamond-shaped symbol. The script is dense and fills most of the page, with some decorative elements interspersed.



Vertical text on the left margin of the left page.

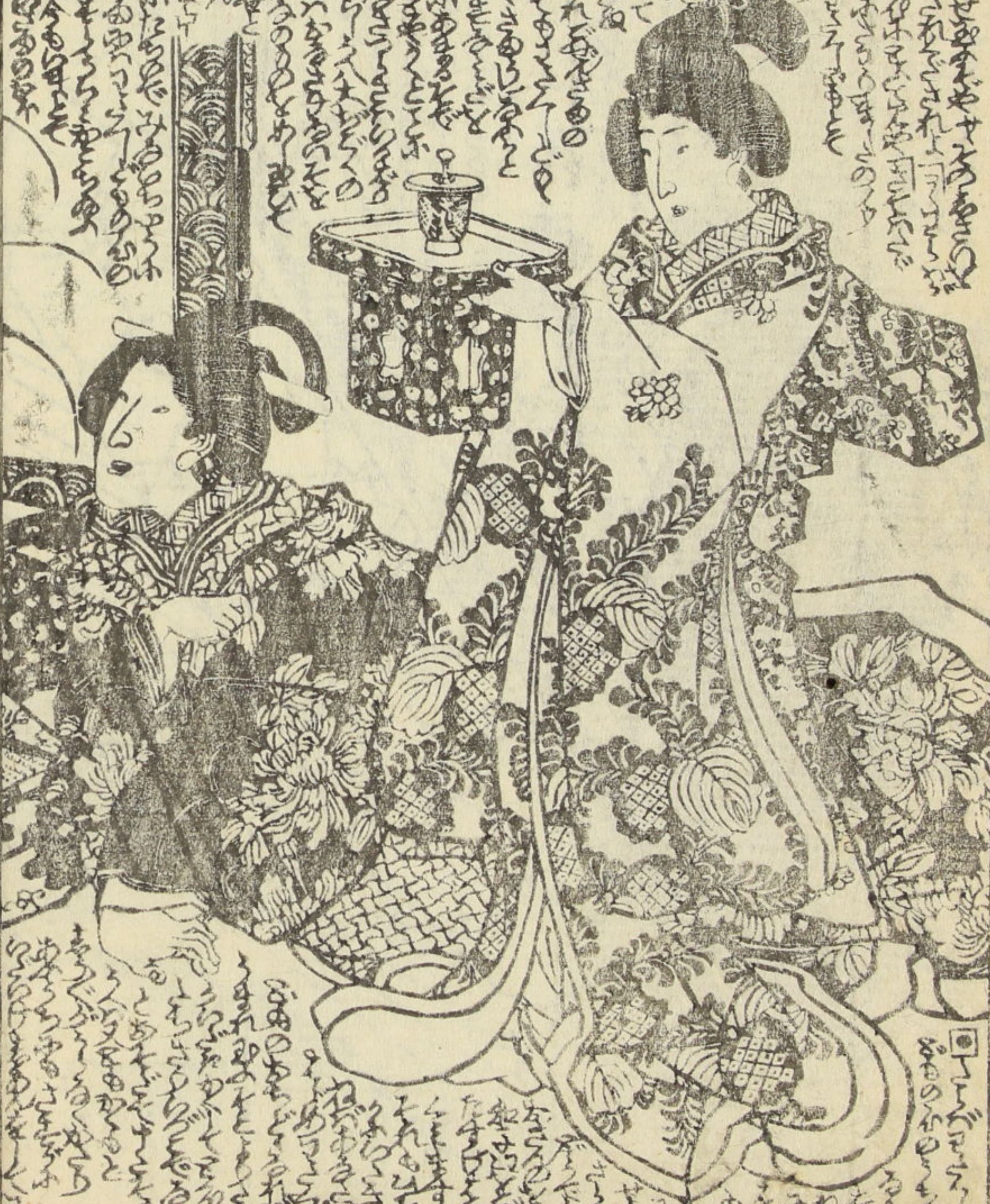
Vertical text on the right margin of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the top of the left page.

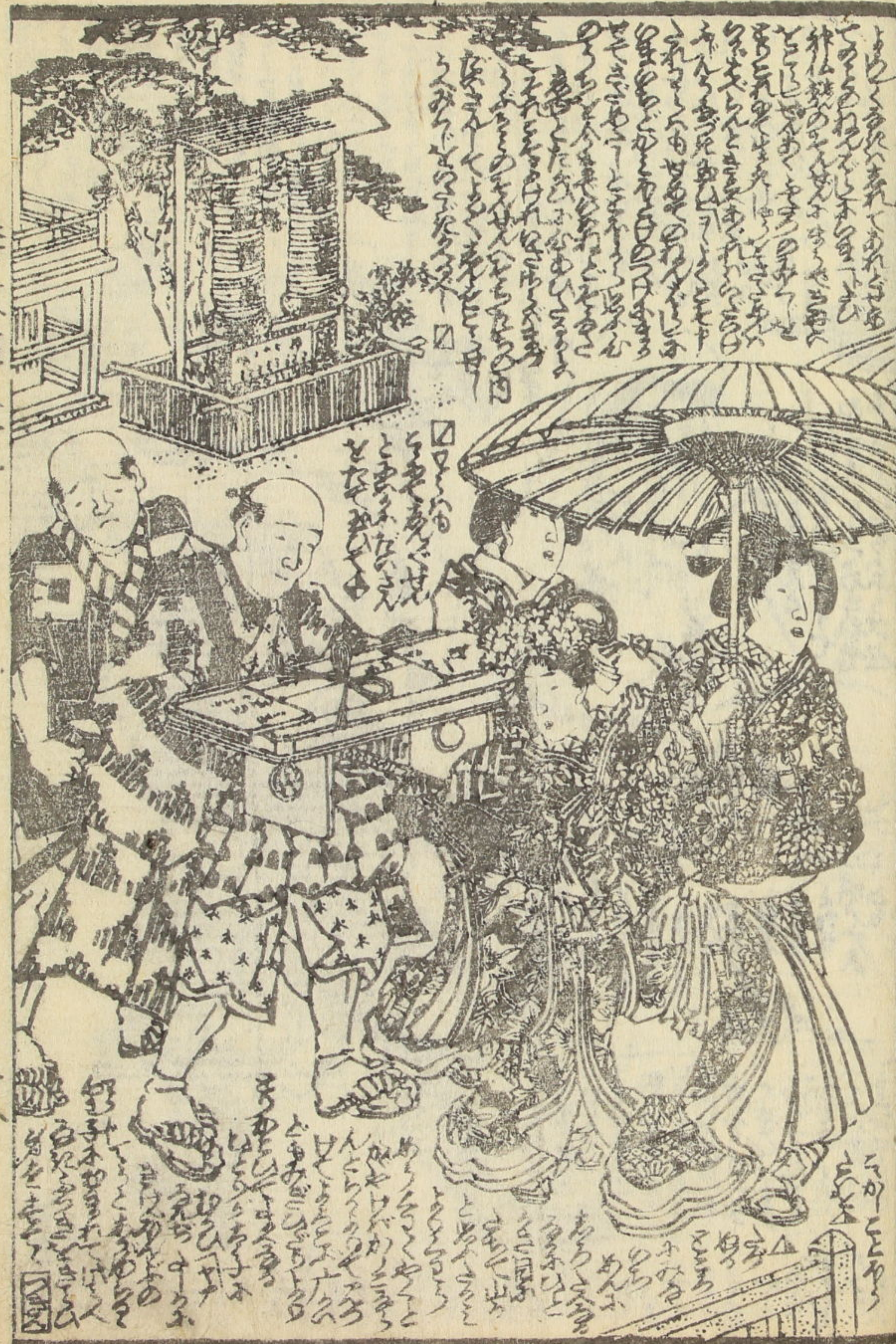


Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the bottom of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, located at the bottom of the right page.



文政二年三月



万亭應賀作 陽齋豊國画



安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫出世双六 万亭應賀作 一陽齋豊國画

春遊 将碁双六 同 歌川貞房画

男女 役替双六 同 一陽齋豊國画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

清元稽古本 初編 二編 出版

常磐津懷中本 初編 二編 四編 退板仕

極上摺 擬百人一首 陽齋豊國画 廣重筆

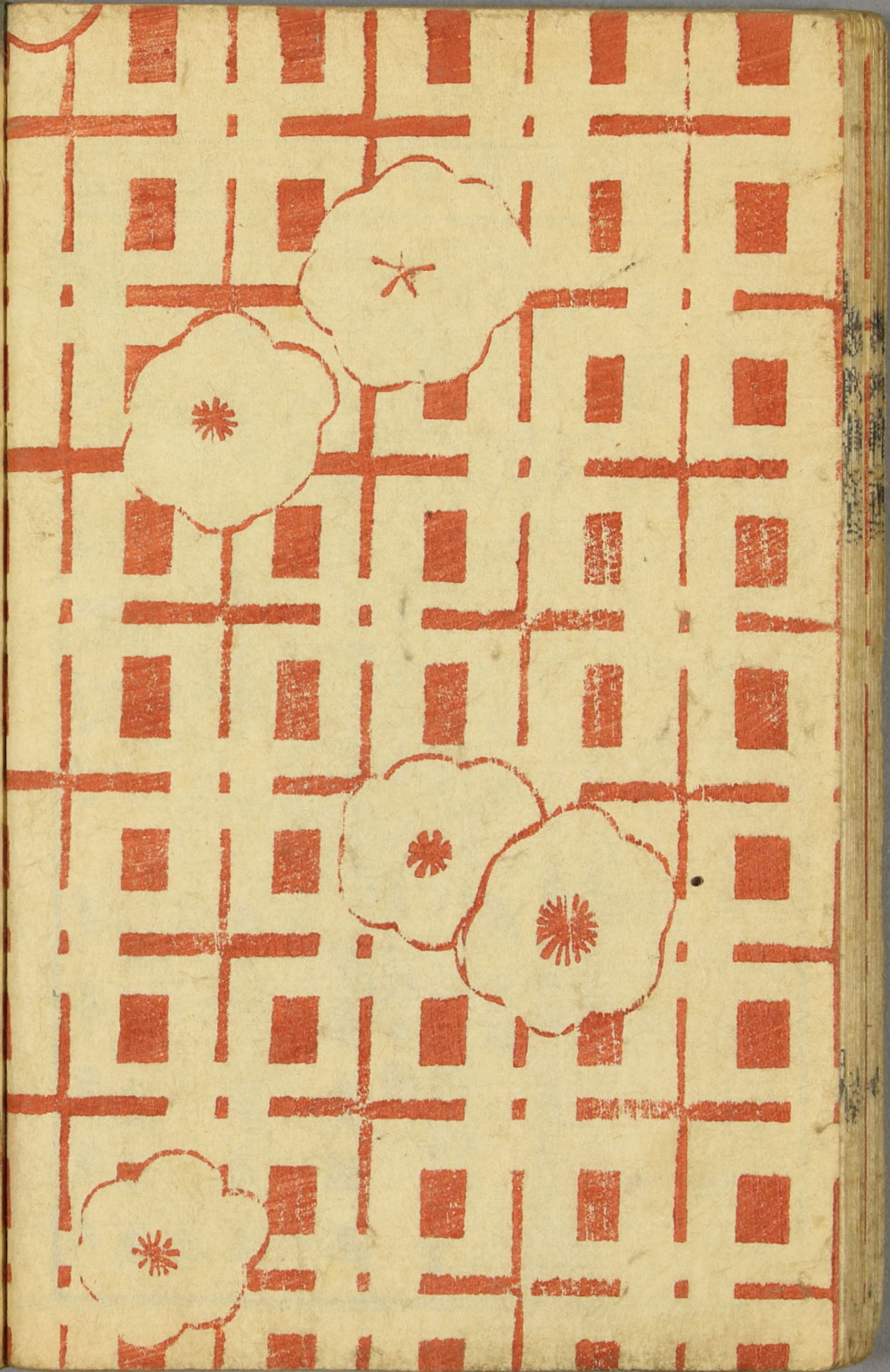
三歌川國貞画

万亭應賀作



三歌川國貞

上



倭文庫

二十四編

壬子ノ歲 上之卷

五並陽

發販

万亭應賀作
一陽齋豊國画

人形町

上州屋重藏梓



釋迦八相倭文庫二拾四編序

夫佛の三身あり第一の法身毘盧遮那佛是の青黄赤白の色
 非む又長短方圓の形非む中道實相の理體も第二の報身盧舍
 那佛是の如未内證の自受法樂の智慧ゆて報身自受用他受用
 華嚴の教主の他受用報身も是の音聲無邊色像無邊の身も第
 三の應身釋迦牟尼佛是の衆生不應同く八相成道の身も教の卷二
 四編をりて全部四十八冊とる故の彌陀の四十八願と表しとるの正覚成道を
 著し是の兼て浄土の法文三部の妙典觀無量壽の説頻婆娑安羅陀
 逆子阿闍世太子の最初と終ると爾で

嘉永六癸丑年
子孟陽吉旦發行

万亭應賀誌

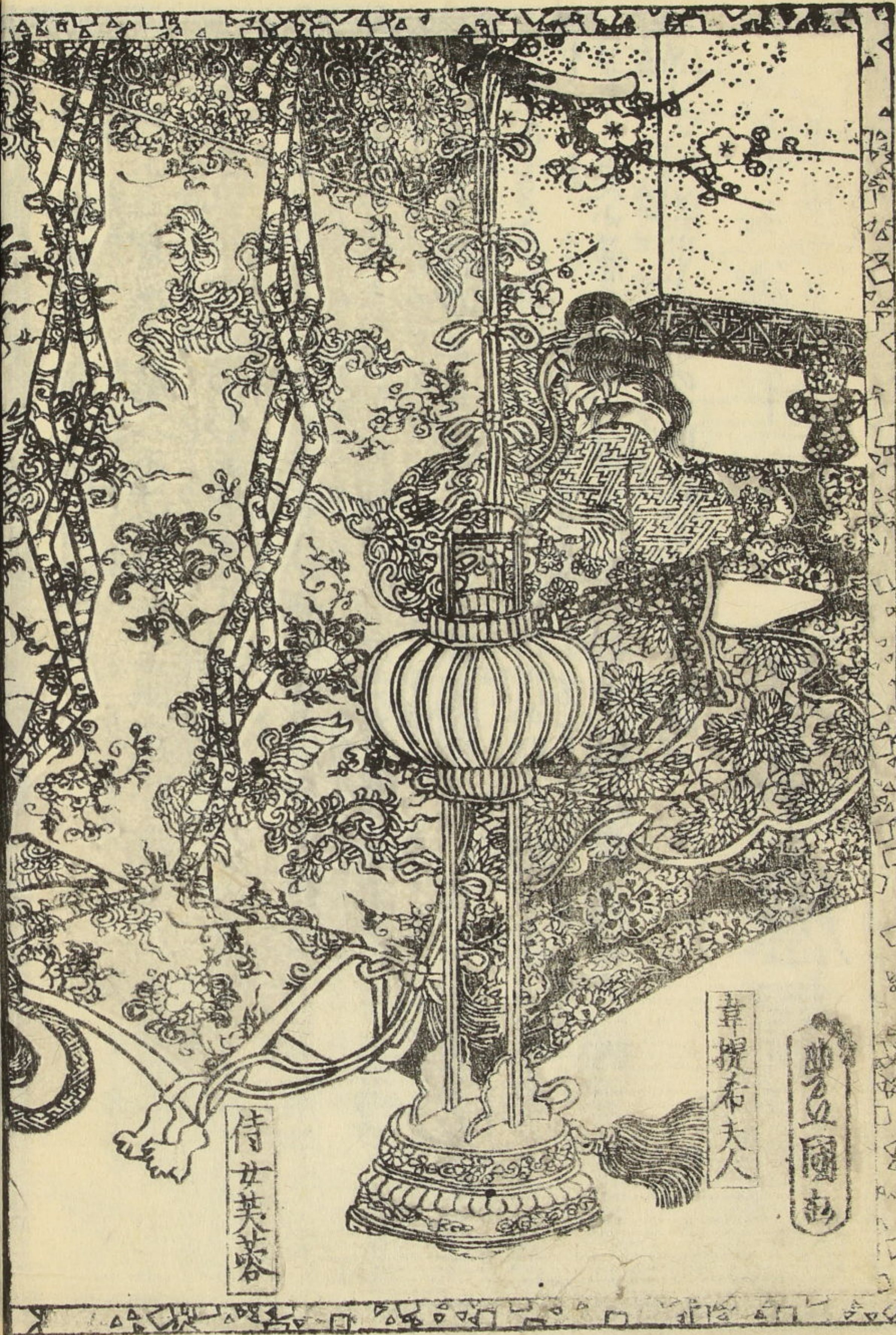




摩訶羅國王舍城の
主殿深き御座王の
御正室高橋御夫人
手高橋も産長
梨屋河内屋大子及
巻物各指太子
云西宮皇子也

花
女

卷之七十四



摩訶羅國

高橋御夫人

侍女芙蓉

卷之七十四

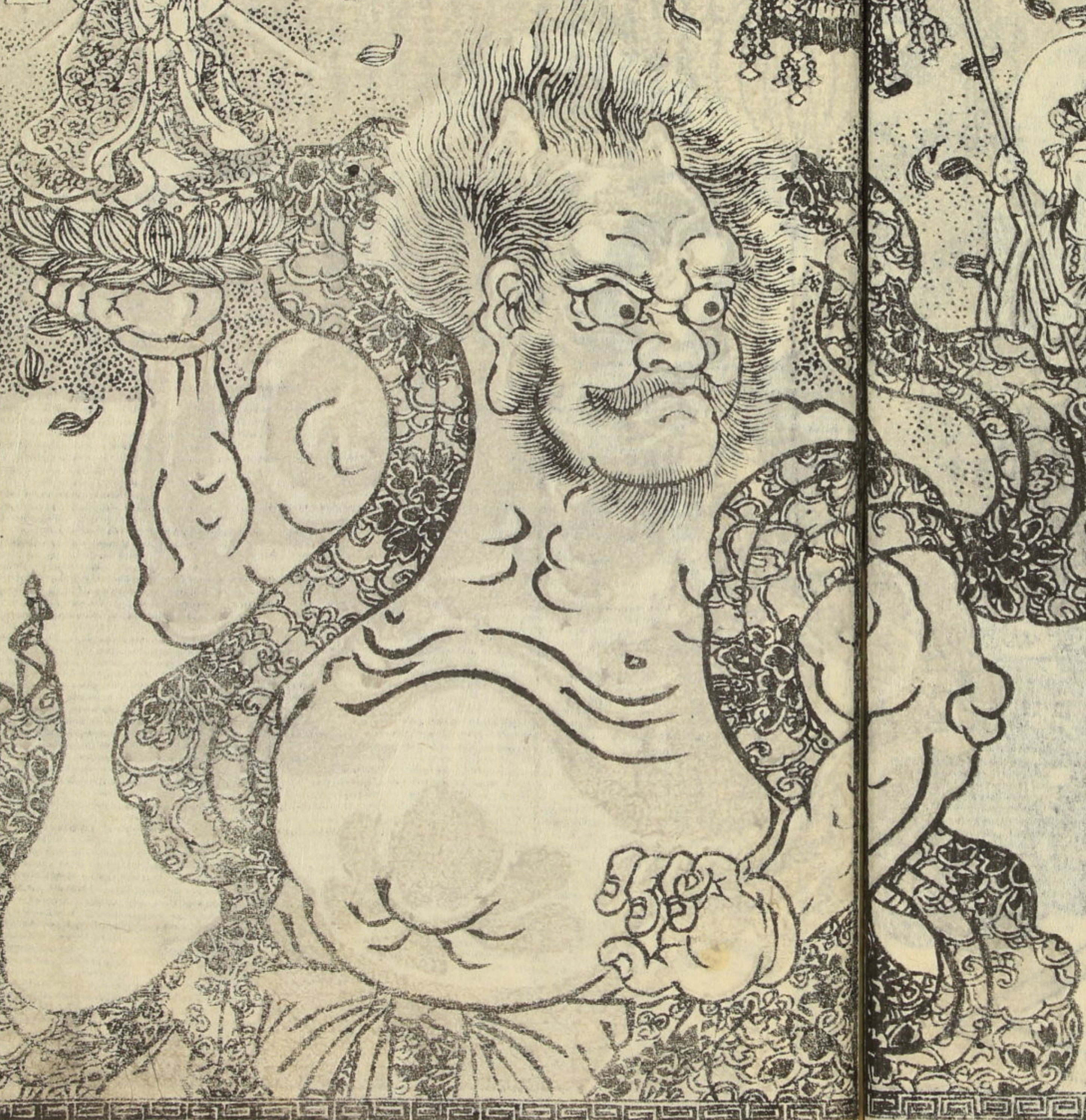
悉達太子



諸天善神



十方三世の諸佛



羅刹の内證時陀羅尼師耶
本来毘盧舍那佛

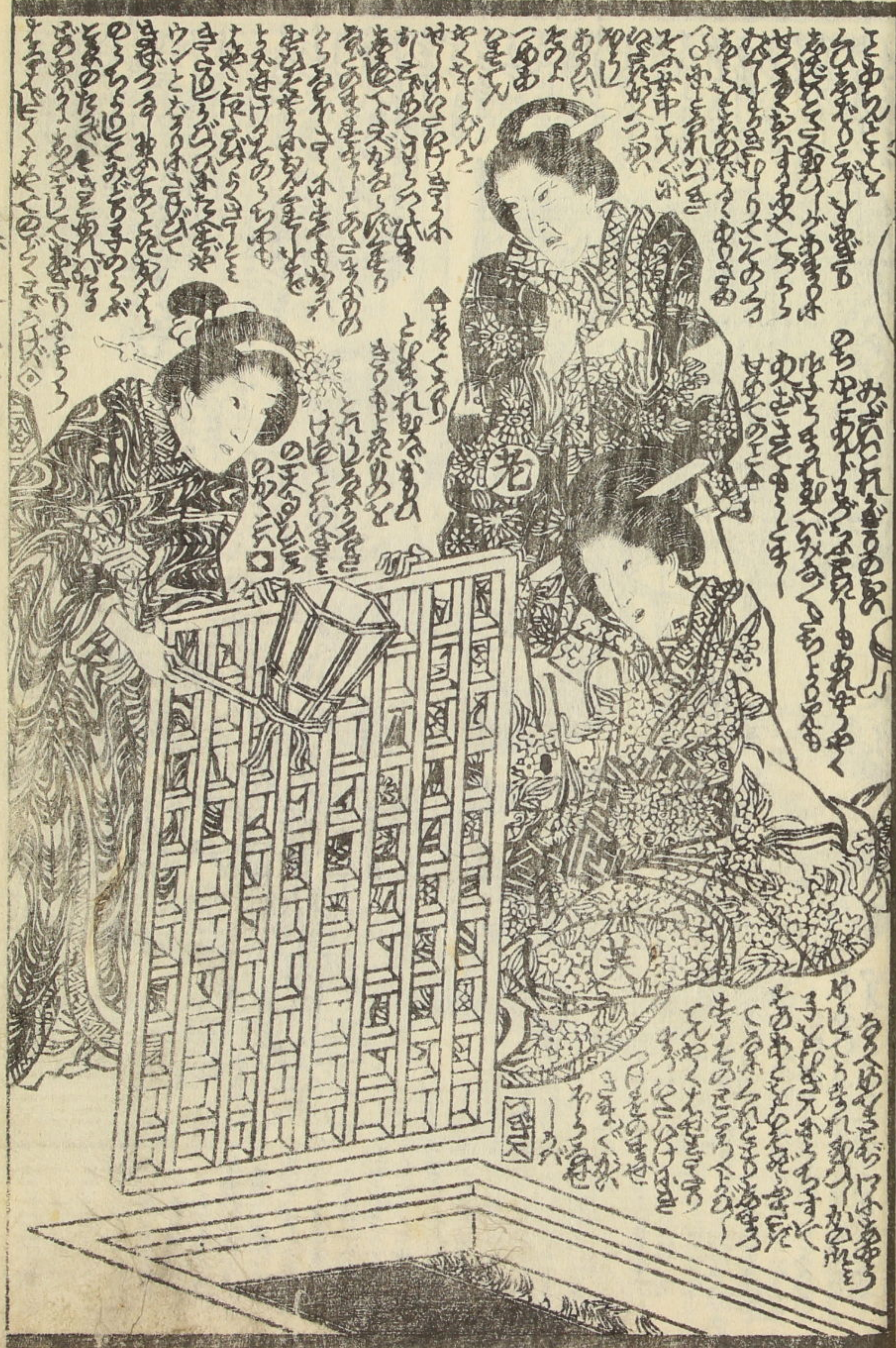
悉達太子の靈
山崩梨四句
文半偈の為
一身投契
因位の成時を
かこる

曲五團五



悉達太子

悉達太子

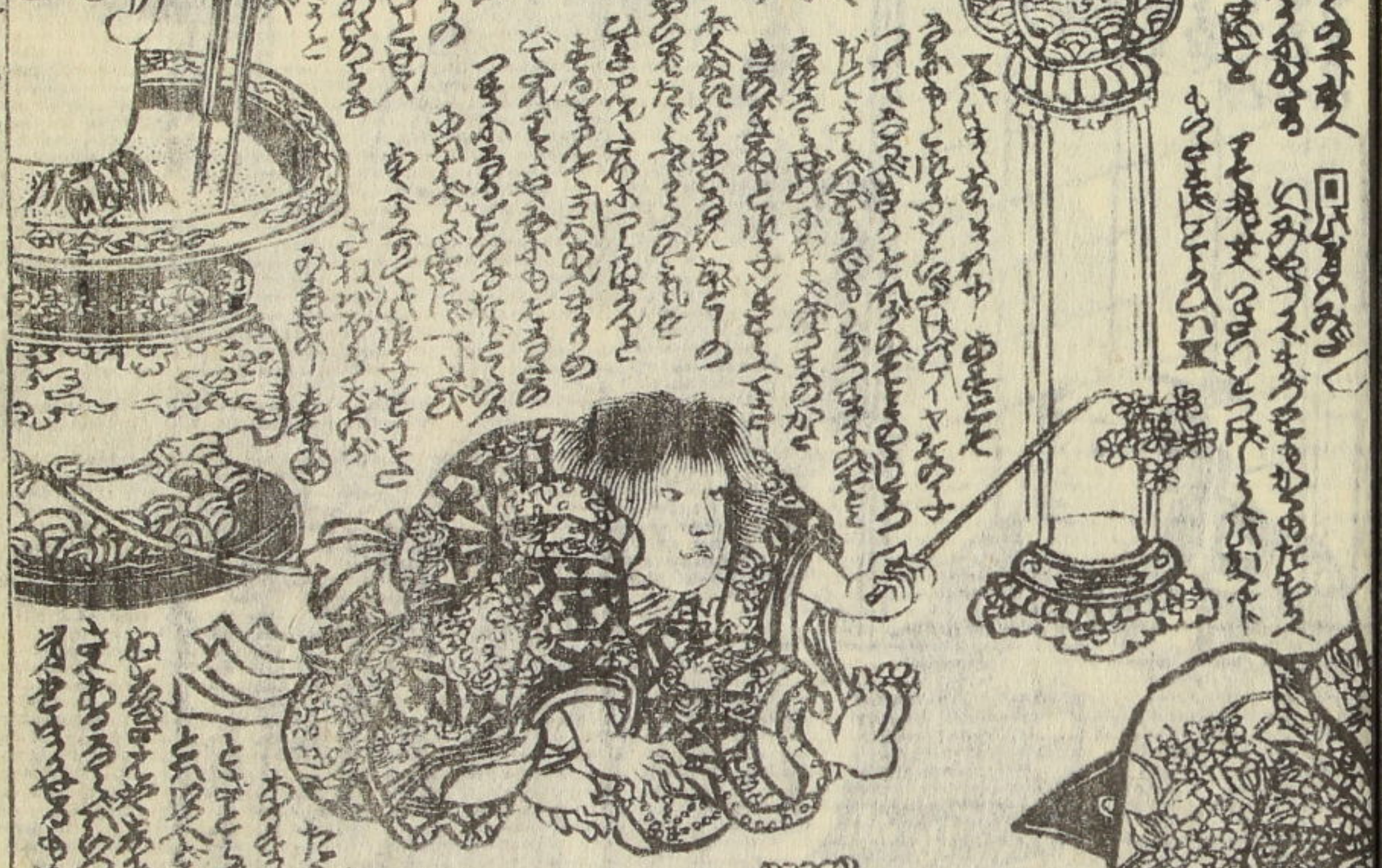


Handwritten text in the top right section of the right page, likely a preface or introductory text.



Small handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or a note.

Handwritten text in the top left section of the left page, continuing the narrative or providing commentary.



Handwritten text in the bottom left section of the left page, likely a continuation of the text from the top left.

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the left page.



Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, likely serving as a preface or commentary.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page, likely serving as a preface or commentary.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the left page, continuing the narrative or commentary.



應賀作代二國貞画

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫

三十四編 三十五編 三十六編 三十七編

万享應賀作 一陽齋豐國画

赤松譚

九編 十編

如洲外史作

重井菱

六編 七編

為永春水作画

譚柄瑠璃薺

四編 五編

西澤一鳳作

茶番案文

全冊

一勇齋國芳作

神代毛月卷

三編 四編

同 一勇齋國芳画

重本類錦繪

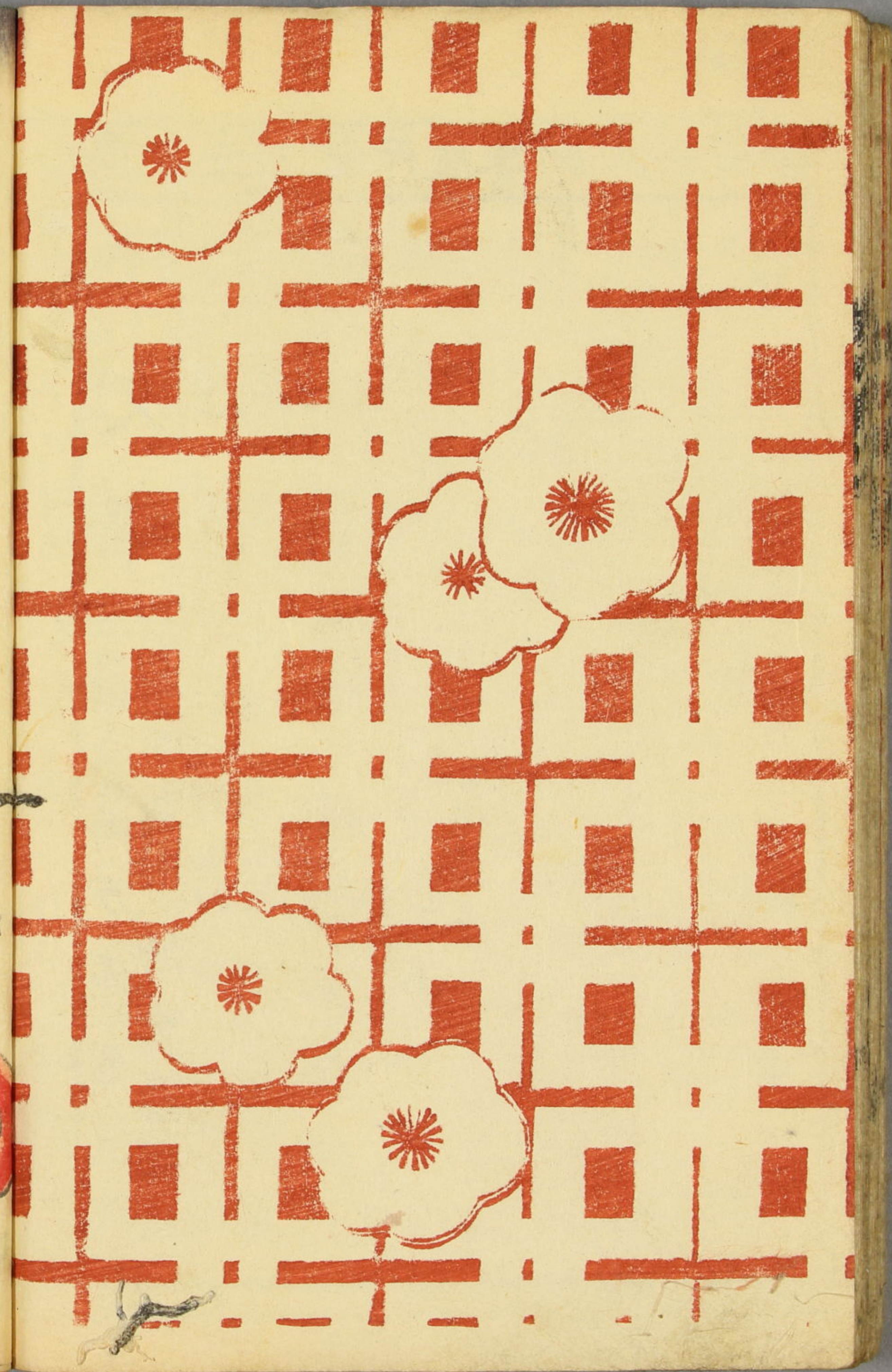
一冊

上州屋重藏



倭文庫二拾四編

下



唐藩を好ん

大四海

子乃美

形制

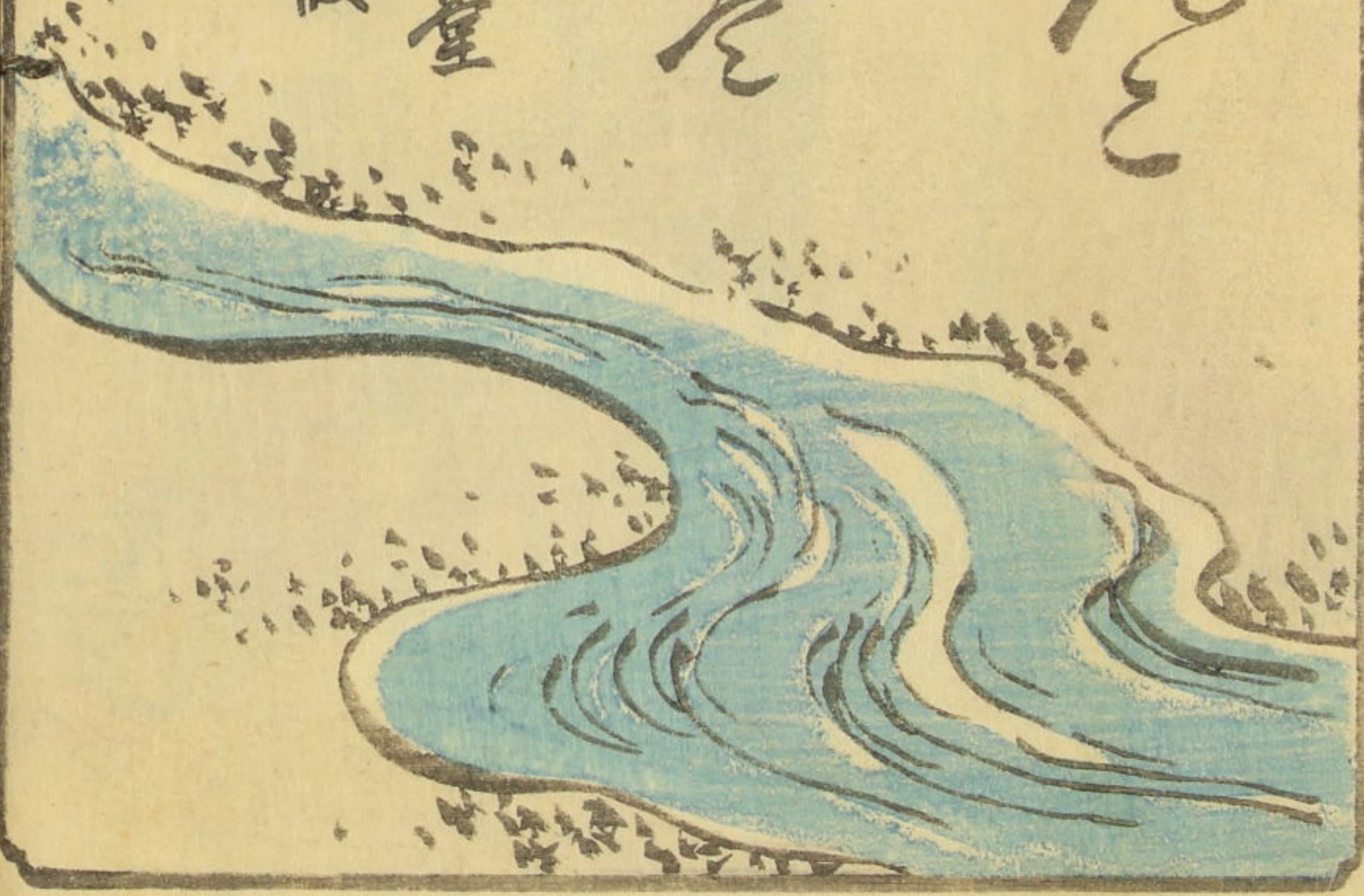
中江亮

唐契作

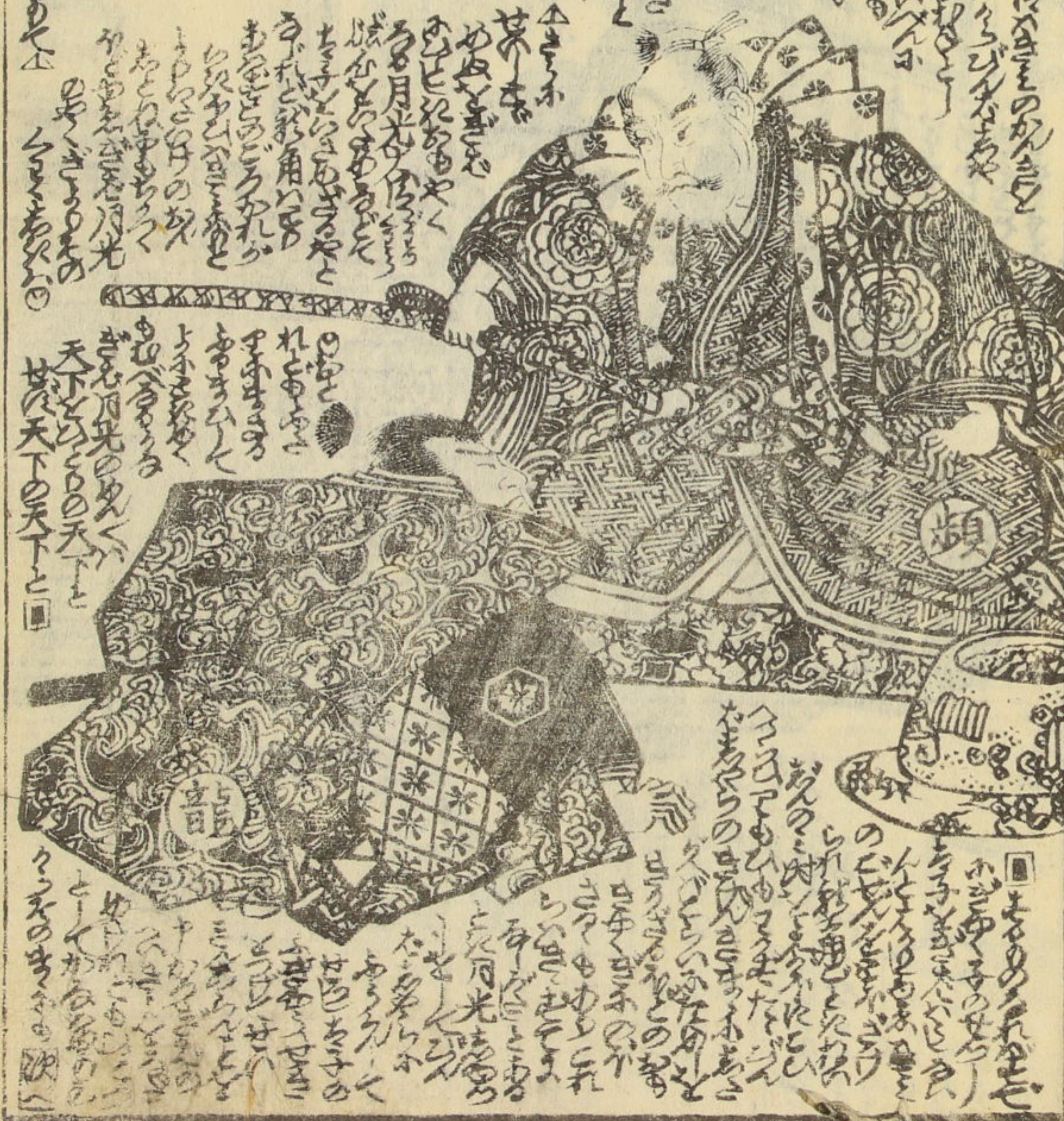
錦重堂

費版

壹國画



正の... 唐の... 契の... 作の... 壹の... 國の... 画の...



唐の契作

唐の契作... 壹國画... 唐の契作...

神醫書

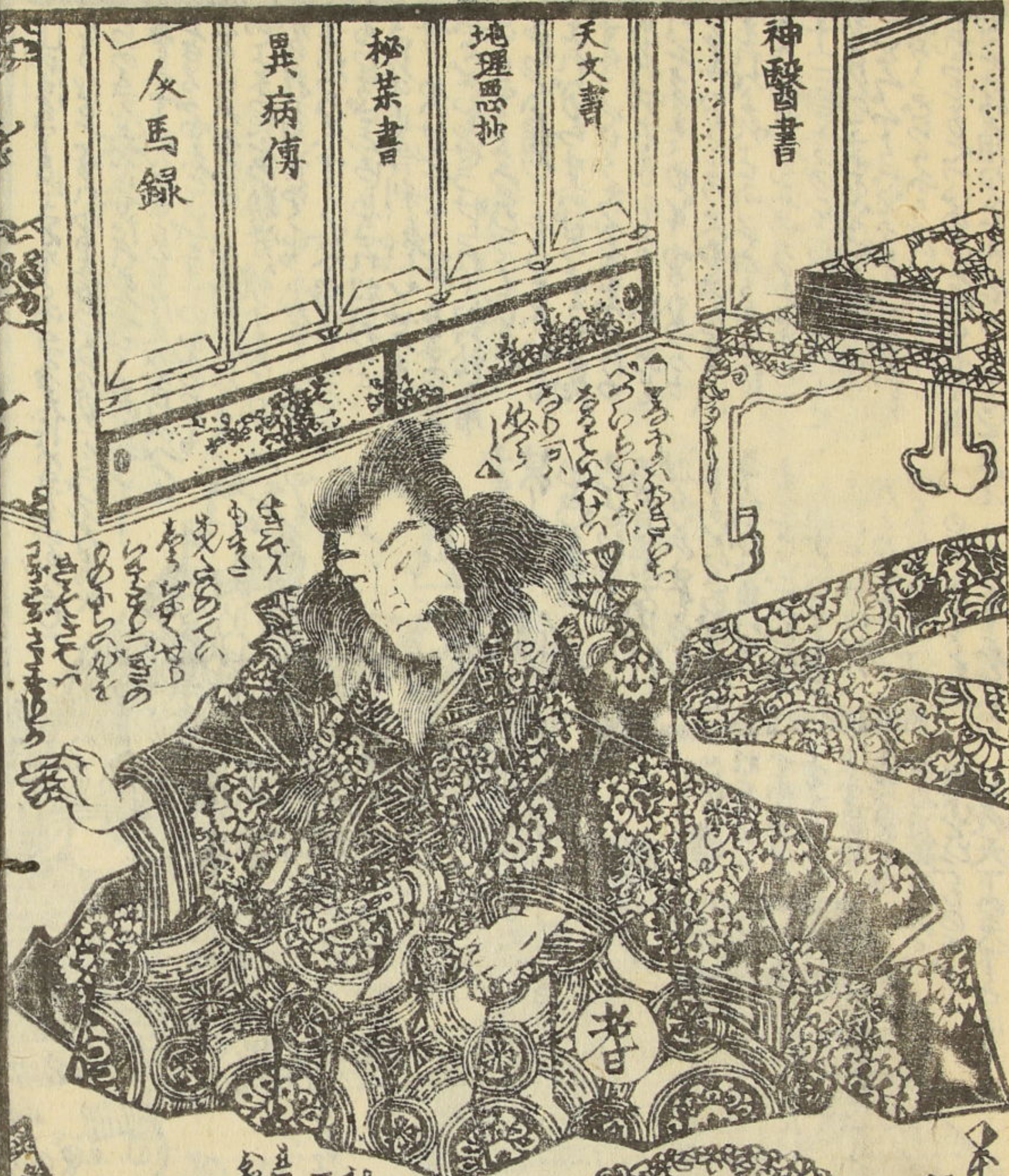
天文書

地理書抄

秘策書

異病傳

女馬録



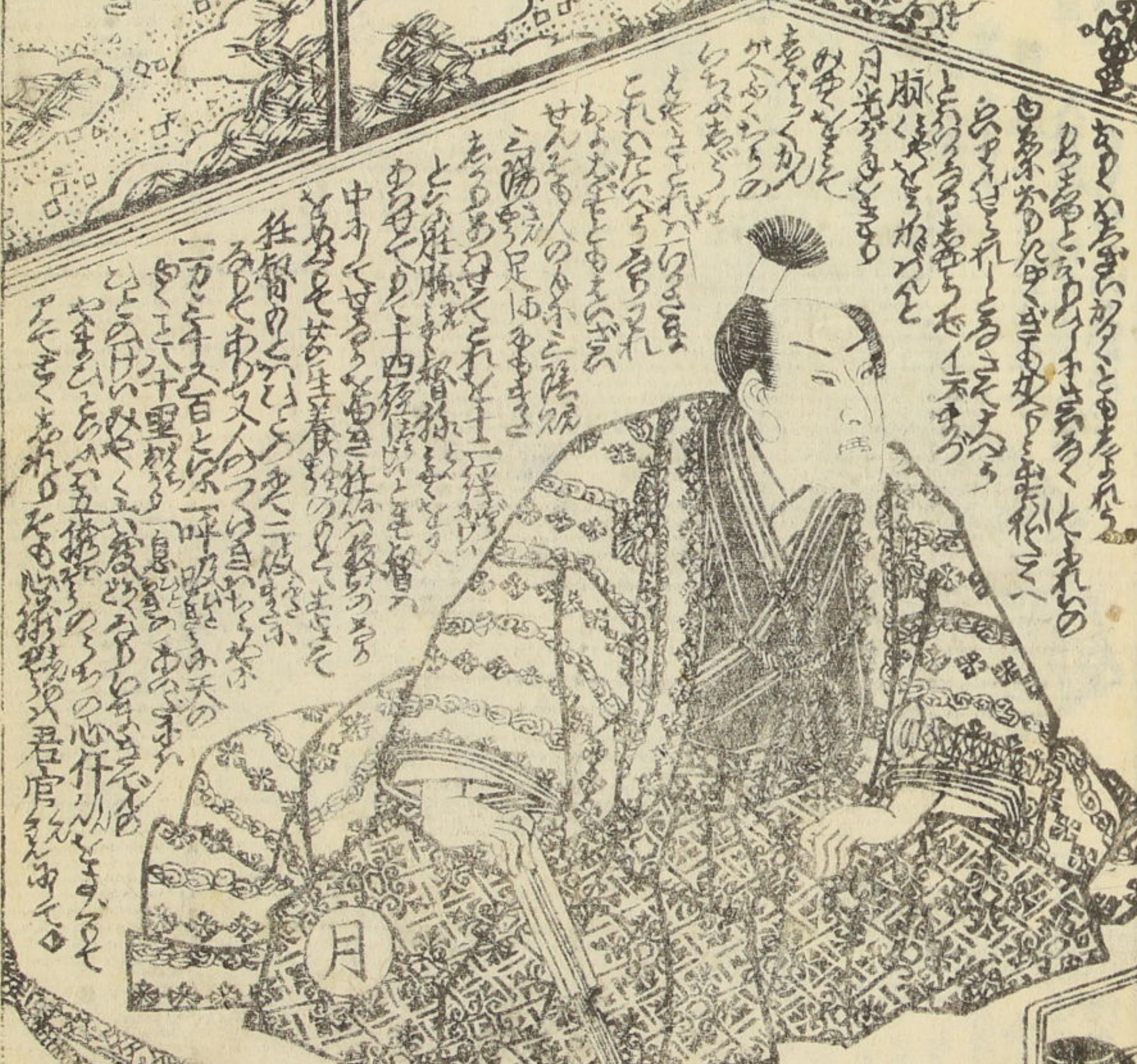
其の書
 天文書
 地理書抄
 秘策書
 異病傳
 女馬録

本心抄の巻は八の中と
 行儀抄の巻は神の
 官儀儀書
 の中
 神の儀
 神の儀
 神の儀
 神の儀
 神の儀



此の書は
 天文書
 地理書抄
 秘策書
 異病傳
 女馬録

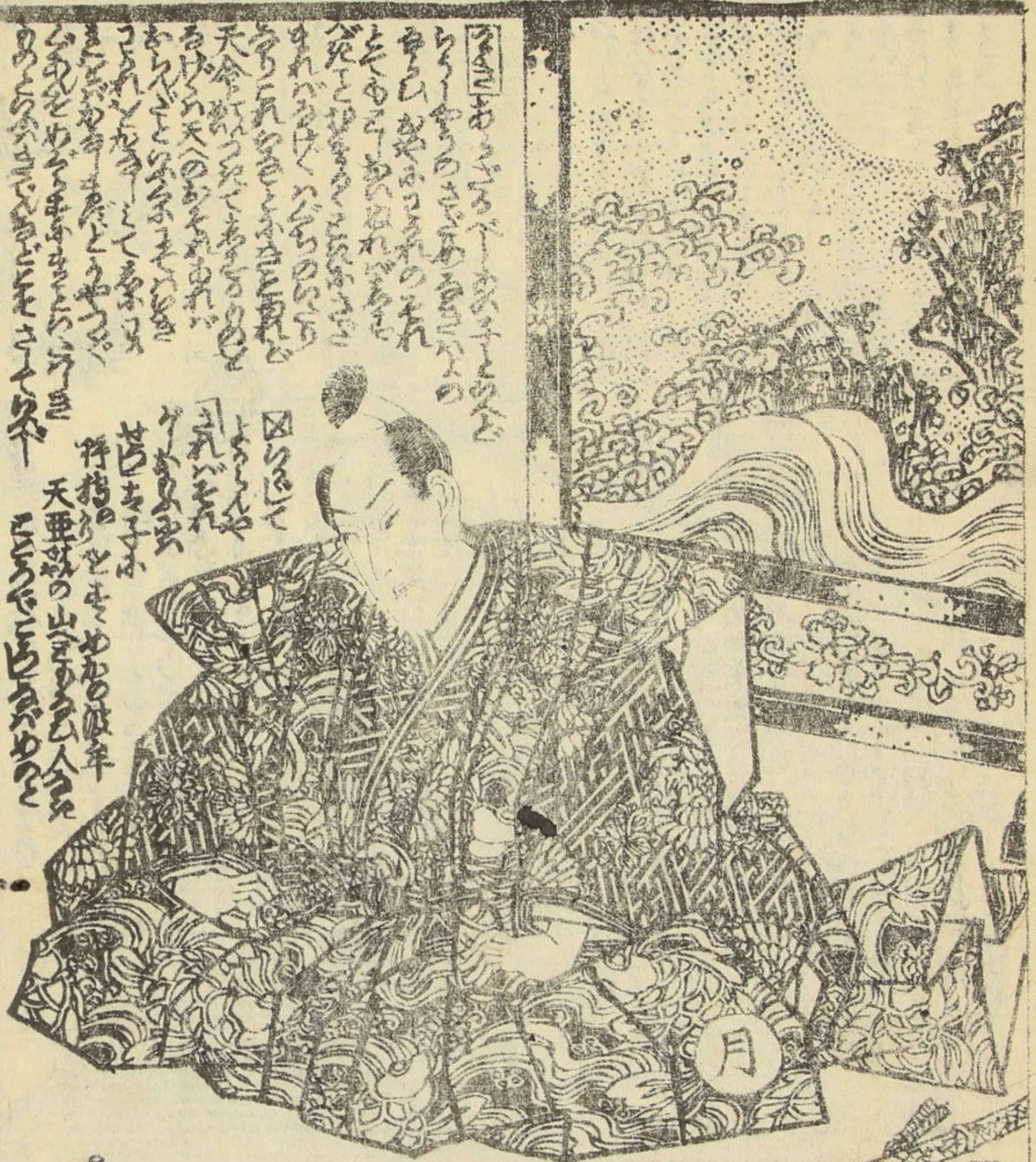
此の書は
 天文書
 地理書抄
 秘策書
 異病傳
 女馬録



其の書
 天文書
 地理書抄
 秘策書
 異病傳
 女馬録

月

此の書は
 天文書
 地理書抄
 秘策書
 異病傳
 女馬録



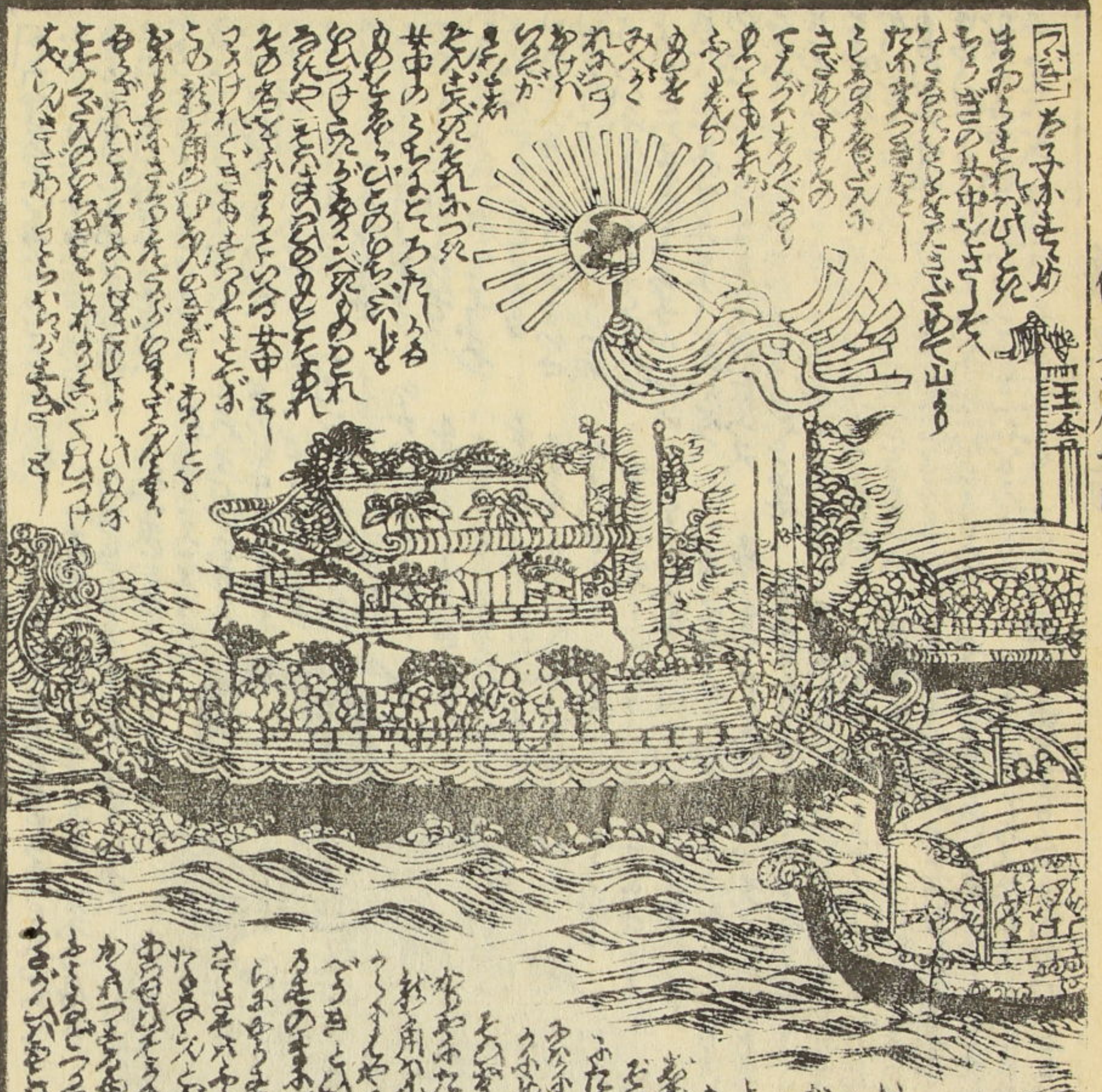
天合... 角子... 月... 天正... 山... 人...

角子... 月... 天正... 山... 人...

角子... 月... 天正... 山... 人...

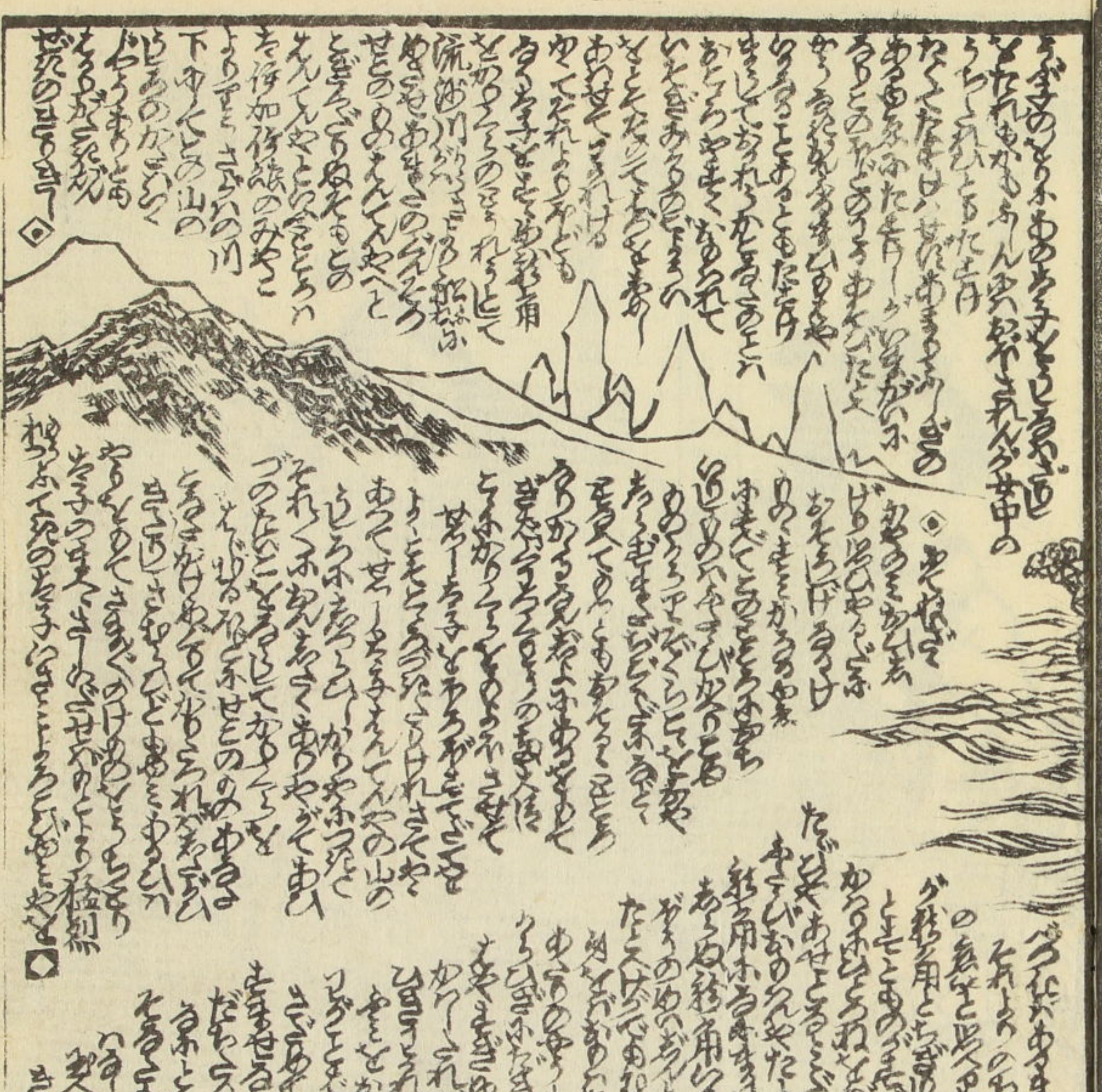


角子... 月... 天正... 山... 人...



此乃天子之廟也
 其殿中設神位
 殿前設祭壇
 壇前設燎壇
 燎壇前設洗心壇
 洗心壇前設盥洗池
 盥洗池前設更衣室
 更衣室前設門
 門前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿
 殿前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿
 殿前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿

此乃天子之廟也
 其殿中設神位
 殿前設祭壇
 壇前設燎壇
 燎壇前設洗心壇
 洗心壇前設盥洗池
 盥洗池前設更衣室
 更衣室前設門
 門前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿
 殿前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿



此乃天子之廟也
 其殿中設神位
 殿前設祭壇
 壇前設燎壇
 燎壇前設洗心壇
 洗心壇前設盥洗池
 盥洗池前設更衣室
 更衣室前設門
 門前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿
 殿前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿

此乃天子之廟也
 其殿中設神位
 殿前設祭壇
 壇前設燎壇
 燎壇前設洗心壇
 洗心壇前設盥洗池
 盥洗池前設更衣室
 更衣室前設門
 門前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿
 殿前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿

此乃天子之廟也
 其殿中設神位
 殿前設祭壇
 壇前設燎壇
 燎壇前設洗心壇
 洗心壇前設盥洗池
 盥洗池前設更衣室
 更衣室前設門
 門前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿
 殿前設戟門
 戟門前設棧橋
 棧橋前設甬道
 甬道前設階
 階前設殿



男の
その
その人
よ

男の
その
その人
よ

この
夫を
その
その人
よ

この
夫を
その
その人
よ



男の
その
その人
よ

この
夫を
その
その人
よ

この
夫を
その
その人
よ

この
夫を
その
その人
よ

由利権の死活ありては
 ありけりし事なき
 由利権の死
 あり

角角の死
 ありけりし事なき
 角角の死
 あり

角角の死
 ありけりし事なき
 角角の死
 あり

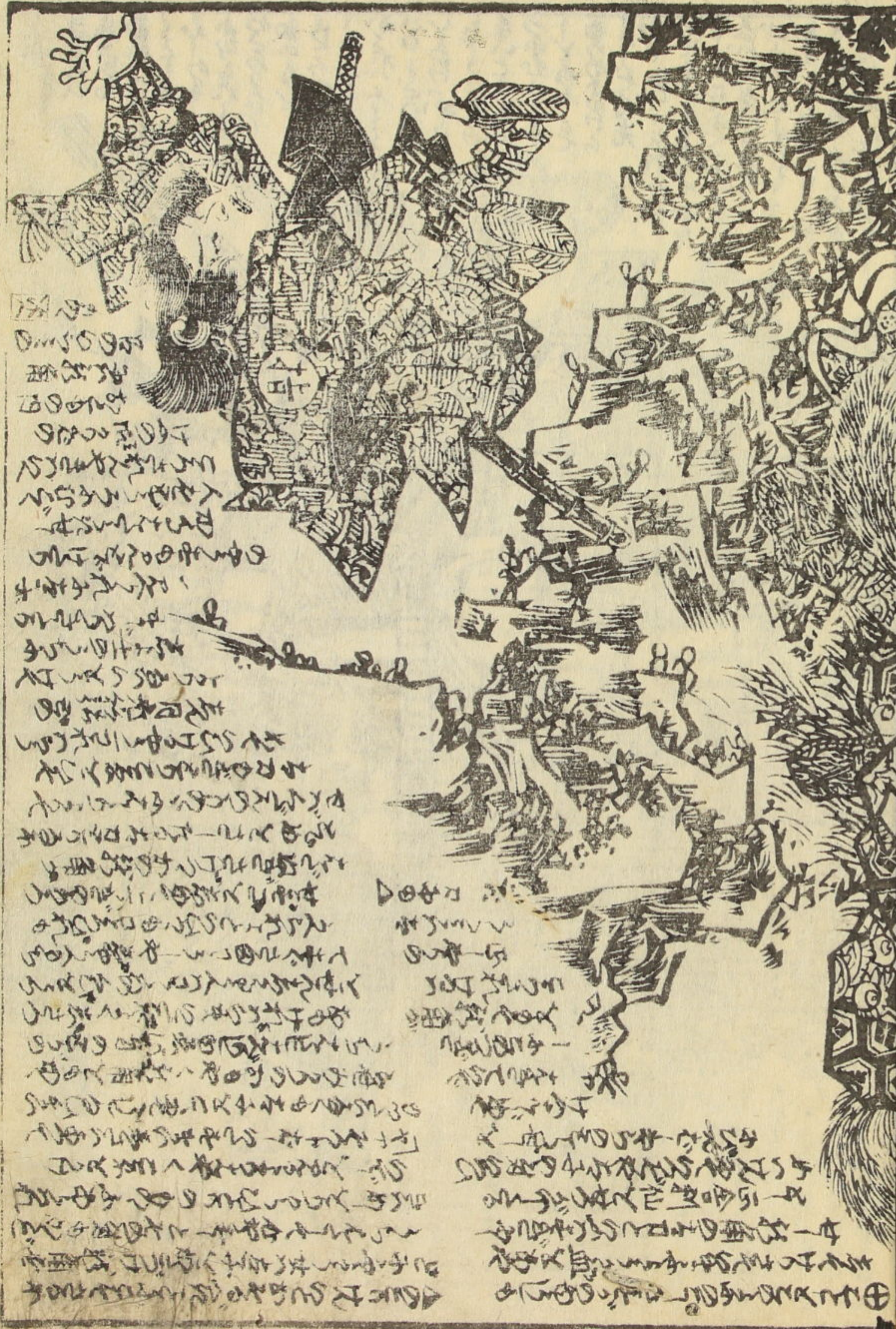
角角の死
 ありけりし事なき
 角角の死
 あり



由利権の死活ありては
 ありけりし事なき
 由利権の死
 あり

角角の死
 ありけりし事なき
 角角の死
 あり

角角の死
 ありけりし事なき
 角角の死
 あり



① 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

② 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

③ 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

④ 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

⑤ 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。



① 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

② 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

③ 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

④ 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。

⑤ 此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名が
 残っている。



ついでに
この戦で
ついでに
ついでに
ついでに

この戦で
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに

この戦で
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに



ついでに
この戦で
ついでに
ついでに
ついでに

この戦で
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに

この戦で
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに



此の如くは...
 一切の有為法...
 如露亦如電...
 應作如是觀...
 此の如くは...
 一切の有為法...
 如露亦如電...
 應作如是觀...

一切の有為法...
 如露亦如電...
 應作如是觀...
 此の如くは...
 一切の有為法...
 如露亦如電...
 應作如是觀...



一切有為法
 如露亦如電
 應作如是觀



あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる

あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる



あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる



あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる

あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる
あまのついで
まはるるまはるる

倭文庫出世双六 万亭應賀作 一陽齋 豐國画

春の将碁双六 同 歌川貞房画

男女役替双六 同 一陽齋 豐國画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續 山本竹山画

清元稽古本 初編 二編 出版 山本竹山画

常磐津懷中本 初編 二編 三編 四編 退板仕

極上摺 擬百人一首 見の巻 仕立の巻 百枚揃 立齋 廣東筆

万亭應賀作 代歌川國貞画



